

だれでも幸せになれる教えです!!

ひかり

2022年

6月

202号

さみだれ



◇ 他者を知る、自分を知る真の智慧
◇ 究極の認知症対策!

宗教法人 真生会

信仰の視野を広げよう

『自分から家族へ、家庭から社会へ』

真生会の教えとは！

仏さまの智慧とものの見方を身に付け、自分の運命を変え、在家の法華経教団です。宗旨宗派は問いません。どなたでも安心してお越し下さい。

◇慈悲の世界「真生楽園建設」

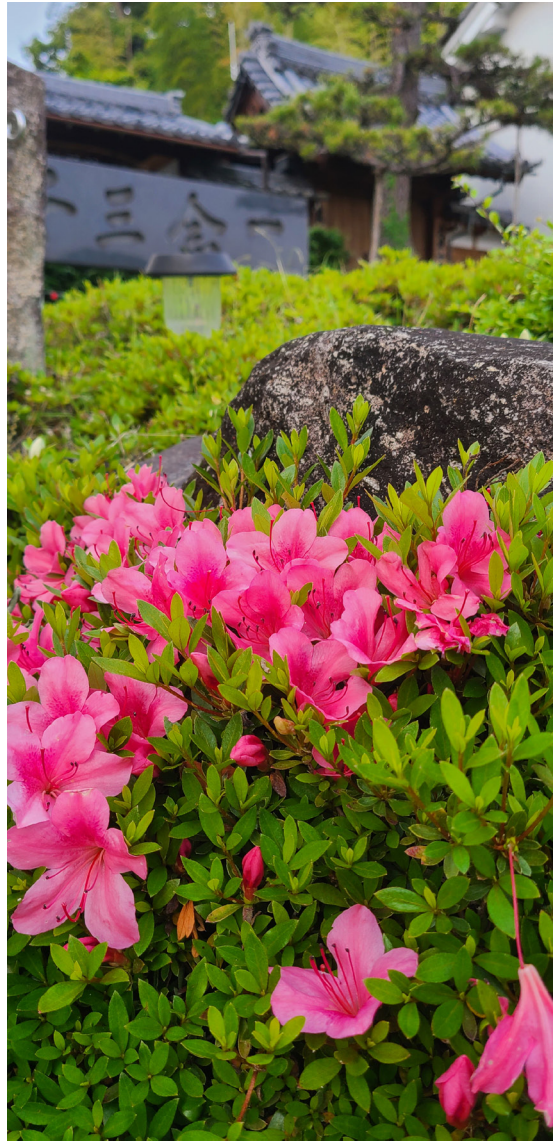
- ・ぬくもりと安心のある家庭と社会を作る
- ・思いやりと親切の実践

◇即身成仏「輝く自分作り」

- ・ありのままに輝く自分自身になる
- ・笑顔と明るい声がけの実践

◇幸福の五ヶ条

- 一、素直な心：（おかげさま）
- 二、誠の心：（まず人さま）
- 三、明るい心：（きつとよくなる）
- 四、尊ぶ心：（仏性を拝む）
- 五、信じる心：（皆、仏の子）



真生寺前庭に咲き誇る深紅のさつき

サツキは山奥や溪流沿いの岩肌など厳しい環境を好んで生息します。川が増水して水をかぶっても流されないような低い姿勢で自然の厳しさに耐えている姿から「節制」「節約」などの花言葉がつけました。また、サツキの花はとても濃い赤色をしていている株が多く、真っ赤な花が目立つので、「幸福」という花言葉もあります。

「忍耐力、低姿勢、幸福」私たち信仰者にぴったりの花ですね！

お盆先祖大法要のお知らせ

総本山真生寺

7月17日（日）午前10時から
大阪教会

7月17日（日）午前10時から
名古屋教会

7月18日（月）午前10時から
※詳しくは各教会にお尋ねください。

コロナ感染症はまだ終息しませんが、ウイズ・コロナに向かって、手指消毒、マスク対応など感染対策を講じながら、仏縁・良縁に積極的に参拝しましょう！！

直接参拝できる方は、仏さまのご加護と法話の感動を全身の五感（目・耳・鼻・口・肌）で受け止め、心を感謝と悦びで満たしましょう！

ウクライナ、人道支援救済募金お礼

募金受付（5月20日まで）にご協力頂き感謝お礼申し上げます。

¥ 4 3 8 , 0 0 0

上記の金額を5月25日 WCRP 世界宗教者平和会議に寄託いたしました。



開祖さまのみ教え

開祖 田中偉仁

ある日、娘の離婚問題で親夫婦が相談に來られました。跡取り息子の家に嫁いだ娘が、夫の親と意見が合わず、実家に戻ってきました。娘に戻るように言い聞かせても絶対戻らないと言いつ張り、先方も戻って來なくていいと取り付く島もなく、困り果てているということでした。娘で困るのは母親に対する親不孝の罪であることを説きました。この父親は真面目なご養子で、最初は義理の母に一生懸命尽くしましたが、どうしても意見が合わず、最後は家を追い出し、アパート暮らしの中で義母は一人淋しく亡くなったのです。ちょうどお盆法要の直前でしたので、親不幸を心から懺悔し、一人寂しく亡くなった義母の供養を精一杯なさい。あとは仏様にお任せですと説法しました。懺悔罪障消滅、お盆法要が済んだ直後に婿が頭を下げて迎えに來て、めでたく元のさやに返ることができたのです。先祖供養の功德は偉大なのです。

ぶし眞教法話

会長 田中 庸仁
たなか つねひと



◇他者を知る

他者とは異質なものの、よく知らない、よくわからない存在です。相手の一面一部分しか知らないから誤解と錯覚により対立し、疑心暗鬼が生じ敵視するのです。自分を変えず、相手を自分の思う通りに一方的に同化させよう、変えようと思うから争いが生じるのです。国同士なら究極は戦争となります。今回のウクライナでの戦争は、ロシアの力による一方的な変革行動です。

相手をよく知り、自分をよく知ることが大切です。解っているつもりで自分が一番よく解っていないのです。

仏さまの智慧は、偏らない生き方『中道』即ち歩み寄りの実践です。ありの

ままを認め理解し、ありのままを受け入れることで安心と平和が得られます。

◇ 自分を 知る

先月のゴールデンウィーク中に、息子夫婦の仕事の都合で五歳と三歳の外孫を二日間預かりました。子供たちだけのお泊りは初めてなので、夜が大丈夫かなと心配しました。嫁に「子供たちに気付かれないようにそっと帰るタイミンが難しいね」といいますと「お父さん、ちゃんと話して言い聞かせますから、多分大丈夫です」とひらがなで手紙を書き、上の子と一緒に読んで優しく言い聞かせていました。子供を信頼して話す母親の智慧だなあと感心しました。

お姉ちゃんは「ちよつと寂しいなあ」と言いましたが、泣かずに頑張りました。妹の方は、遊ぶのが楽しいみたいで案外大丈夫でした。

問題は寝る時です。いよいよ寝る時間になって、家内、お姉ちゃん、妹、私と横一列になって布団に入りました。上の子は遊び疲れてすぐ寝ましたが、下の子はなかなか寝ません。私の枕元に寄ってきて、手や足で私の胸や腰をツンツンと突いてくるのです。ちよつと寂しいのかなと思いましたが、こちらも眠れませんので背中を向けて横向きになりました。すると今度は、私の髪の毛を

いじりはじめ「おじいちゃんの髪の毛触った」と独り言を言っていますので、振り返って孫の方に向き直り、顔を突き合わす格好になりました。すると今度は「おじいちゃん、お顔臭い」と一言。

孫から自分の顔が臭いと初めて言われプチショックでした（笑い）。きっと自分では気づかない加齢臭であり、思えば自分も幼い頃、おばあさんと寝るとおばあさんの独特の匂いを感じていたこと思い出し、自分もそんな年齢になってきたのだと実感しました。

皆自分のこと、自分のにおいは自分では解らないのです。誰にでも固有のにおいがあり、怒り癖、愚痴癖、引っ込み思案やお節介、心配性など様々な心癖があります。自分では気づかないのです。ここに「知らず知らずのうちに犯したる罪咎」つみとが無実の罪、はためいわく傍迷惑なことが有るのだなあ！と知らされました。

半面、『薰習』くんじゅうと言って毎日線香を焚たいてお参りしているとお香の香りが衣服や身に染み付くように、長年信仰をしていると「人様のため、人に喜んでもらおう」という教えが自然と身に染み付き、無意識のうちに何気ない行動や一言で徳の積める良いことをしているのです。これが信仰の利点であり、人格完

成の妙法なのです。「己を知るを真の智者と名付ける」という教えの通り、自分の長所と欠点をよく知り、長所を伸ばし欠点に気を付けるようにしていれば、人格が磨かれ幸せに近づいていけるのです。

◇究極の認知症対策

いま認知症の親を抱え、経済的、精神的、肉体的に家庭崩壊の危機が大きな社会問題になっています。施設や病院は出来る限りの看護をしてくれませんが、家族のような触れ合いはできません。家族との楽しい会話と肌の触れ合い、五感で感じる生活が究極の認知症対策です。

あるご家庭に先祖供養のお経上げに伺いました。そこには八十八歳になる老母が見えます。久しぶりにお会いしましたので「お母さんお元気でよろしいね。娘さん夫婦に大事にしてもらって幸せですね」と声を掛けますと、奥さんのお母さんを面倒見ているご主人が言われました。

「先生、今は元気になりましたが、一年ほど前に転んで腰を骨折し、三ヶ月ほど入院しました。コロナの関係で面会することもできず、ベッドで寝た切りの状態でした。三ヶ月後やっと会うことが許可され面会に行きましたら、婿の

私の名前も解らず、完全に認知症の状態でした。これではいけないと思い、骨折は治っていましたが、家に連れて帰りました。夫婦で頻繁ひんぱんに言葉をかけ、手を引いて散歩に出かけ、一緒に食事をし会話をするようにしていました。見る見るうちに回復し、今では普通に会話もでき、頭もしっかりしています。あのまま病院にいたら、今頃寝たきりの認知症患者になっていたと思います」と驚きのお話でした。

家族の楽しい会話で五感（目と耳と鼻と口と身）の触れ合いが、認知症の予防と治療の秘訣ひけつなのです。テレビのお守りもは、目と耳だけの二感にですからダメです。一方的に情報が流れてくるだけで会話になりません。リモートは会話はできませんが、三感（目、耳、口）ですから不十分です。子供のテレビゲームも同様で一方通行ですから正常な成長には危険です。紙芝居やお母さんの読み聞かせは、五感と第六感（意い心しん）を使って雰囲気や臨場感を子供が肌と心で感じて感性豊かな人間に育ちます。

年を取ると会話が減り、孤食となり、手を握ったり、肌の触れ合いが少なく脳に刺激が無くなり、認知症が進むのです。昔は、親子孫三代同居でしたから、

孫の世話をすることによって、手を繋つないだり、ハグしたり、会話をして認知予防につながっていたのでしよう。核家族は若夫婦にとっても親にとっても「気を使わない」から楽ですが、互いに気を使う適度な緊張感がいいのです。緊張感や刺激のない楽な生活のつけが回って、年老いた親の認知症で本人もみじめであり、子供たちも困っているのが現代社会の実態と言えます。

胎児や赤ちゃんの脳の発達にはスキンシップ、皮膚感覚が決定的に重要で皮膚は第二の脳と言われています。胎児がお腹の中でお母さんの子宮に足や手で触れたり背中せなかで触れることが、脳の発達に大きく影響することが最新の医学で証明されています。真生会で胎教中の母親のお腹をお経を唱えながら拝む一心行は、お経が胎児に伝わり仏縁の深い福德円満な子に育つのです。昔から「肌が合わない」とか「肌で感じる」という言い方がありますが、昔の人は経験的に皮膚の働きの大切さを知っていたのでしよう。

ライフスタイルも多様であり、親の世話は長男夫婦だけの責任ではありませんが、「親密」という言葉の通り、たとえ同居していても同居していなくても、親との連絡や触れ合いを密にすることが現代社会に必要なのです。

釈尊物語

②②

◆◆目連とお盆法要

百味の飲食供養◆◆

目連尊者は釈尊の十大弟子の一人で神通第一と言われました。

目連はある日、幼い頃に亡くなった母親をふと思い返しました。目連の記憶にある母親は慈悲心に溢れ、とても優しい良妻賢母のような方でしたので、きつと極楽浄土で安住しているだろうと、神通力をもって極楽浄土の世界を覗きました。が、いくら探しても母親はいません。

まさかと思いい地獄の世界を覗てみると、なんと餓鬼地獄に母親の姿を発見し

たのです。

目連の母は生前の見る影もなく、飢えで苦しむ餓鬼の姿に変貌し苦しんでいました。すぐに神通力をもって、食べ物母親に授けようとしましたが、母親が手を差し伸べると食べ物も炎となり、灰になつてしまい、飲み物も炎となつて飲めません。餓鬼地獄とは一生飢えに苦しむ地獄だからです。

目連は悲痛な想いで釈尊に尋ねました。「母は生前、素晴らしい人でした。しかし、何故か今は餓鬼地獄で苦しんでいます。なぜ、母親は餓鬼地獄に落ちてしまったのでしょうか。」

「目連よ、あなたの母親はあなたや家族にはとても良い人でしたが、家族を想

うあまりに周りが見えなくなり、施し少なく、時に良くない行いをしていたので。その業によって現在も餓鬼となり苦しんでいるのです。」

「釈尊よ。母親は救われる事はないのでしょうか。このままではあまりにも不憫びんです。どうか救いの方法を教え下さい。」

「目連よ、たった一つだけ母親を救う方法がある。それは毎年雨期明けになると山や森の中で修行していた修行僧たちが法を説くために町へ降りてくる。その僧たちに食事の場を設け、精一杯食べ物や飲み物の食事を施しなさい。そして、修行僧たちが修行によって得た法の智慧、法施を多くの民に与えなさい。この

僧に施した食事と、法の布施の功德により、餓鬼地獄に落ちた母に食事が届くでしょう。」

「お釈迦さま有難うございます。早速実行してみます。」

釈尊より導かれた目連は言われた通り、雨期明けに町に來た修行僧達に食事を施し、多くの民衆には修行僧たちに法話を説いてもらいました。

修行僧に百味の飲食おんじきを供養した功德と多くの民衆に法話を施した功德で目連の母は飲食を口にする事ができ、更にその功德を受け、光明の光を浴びて極楽浄土の世界へと導かれ、母親は餓鬼地獄から救われたのです。そして、目連自身も悟りを開くことができたのです。

今月の運勢（7月）

（2022年7月7日～8月6日）

一 白水星

太陽のもとにあり運勢は強い。すべてはあるべき所に整っている。目的を最後まで責任をもって完成させる人は運が強く、途中でやめる人は運が弱い。一つ終わったら次のことに向かって進むこと。

二 黒土星

親しい間柄に争いの生じる危険がある。平素心の中に隠れていた問題が現れてくる。人徳があり信頼のおける経歴者の助言に従えば、優位に納められる。先祖供養を忘れずに。

三 碧木星

すべてを悦び楽しむ気

持ちを大切にしよう。

いよいよ活動の時到来だが、気負わず穏やかに進めること。事前に皆の心を一致させ優れたリーダーに付いて行えばすべてが思い通りに運ぶ。

四 緑木星

機が熟し、いよいよ好機が到来した。勢いがあり願う事は通る。但し、利益を独り占めせず、他の者と分かち合うこと。互いに助け合うことで勢いが増し、利益が増大する。

五 黄土星

高運期を迎えている。活動範囲を広げ、人脈も広げるチャンス。何

事にも優しさが大切。

自分が何をしたいかよく説明して進むこと。独断専行はせつかくの運気を損なう。

六 白金星

八方塞がりの状態だが、何事にも素早い動きの六白には羽を休める好機である。周囲の状況と自分の現在を見極め、来るべき時に備えてエネルギーを蓄えておこう。

七 赤金星

ことを完成する決断の時である。迷わず一瞬の鮮やかさをもって決断実行すること。但し仲間によく説明し、納得させ団結すること。

準備周到なれば、思いのままに事は運ぶ。

八 白土星

収穫ができ楽しい時だが、派手に振る舞って無駄遣いに注意。蒔いた種は必ず芽生える。損をしても気持ちを変えず、人のために納得して損をすれば、最後はすべて吉となる。

九 紫火星

変化の時、盛大な状況から一転、失意の旅に出る象。難問題に迫られ、誰も助けてくれないが、動揺せず心を山のようにどっしり構え、火のような明るさを失わなければ吉がやってくる。

「まごころ誌代」御礼

松尾定洋	高橋身衣	樋口容子	小村友子	土川順寛
加納啓至	亀井善二	今園達也	谷口祐晟	土川恭代
田中宏明	水田祐記子	松下栄暉	谷口祐子	土川康二
田中花音	加納悠貴	林田早紀子	笹原トミ子	土川廣美
田中啓予	加納宏樹	奥田佳代	笹原正子	横山知津子
田中光隆	加納快志斗	小俣丈子	某女	半澤照子
田中理夏子	加納優子	滝山恵依子	坂本育身	佐藤百々枝
田中佑季子	澤 君美	松下祐侑香	石丸祐視子	佐藤光洋
田中庸仁	澤 芳子	小林佑実子	長尾夏芳里	木村正美
亀井善広	鈴木光隆	坪井佑介	岸本昌子	伊東 晃
亀井由実子	横山侑可	荒木敬依子	京川春男	安田初子
早野起世	豊田直正	出田 渚	滝本光夫	山本季美衣
早野桂子	豊田真悠子	大下裕子	四日市某	増田恵視子
堀部恭利	加藤圭子	宮島りえ	東森弘和	鈴木正巳
宮田雄貴	林ふさ子	平口富子	三木幸子	京川春男
宮田裕加里	今井純司	村上視佑記	木村茂樹	松本真由美
足立和美	細谷早予子	永田雅子	木村ちかえ	松本裕樹
多田佳央	樋口恵美子	堀田純子	福元正子	大橋順子

★皆様の『まごころ次第』献金のご協力によって継続発刊しています。
紙面をもつて感謝申し上げます。(敬称略・順不同)

《入会のご案内》

真生会は、個人の心の勉強と実践を目的とする個人会員制です。各家の宗旨宗派はご自由です。詳しくは総本山真生寺、各教会にお尋ね下さい。

☆会員会費 500円/月

発行所 宗教法人 真生会 総本山真生寺
〒501-1105 岐阜市彦坂178番地
TEL 058(235)7304

発行人 会長 田中庸仁

振込先 三菱UFJ銀行 岐阜支店
普通口座 3715509

名義 宗教法人真生会 代表役員 田中庸仁

しあわせ眼鏡

私は得意なことしがない
弱いから助けくれとは言
わなかった (本田宗一郎)
天は自ら助くる者を助く
(中村正直、西国立志編)
自分の長所に気付き
弱音を吐く前に
工夫をすれば道は開く

お気軽にご連絡ご相談下さい

- | | | |
|----------|-----------|--|
| 【総本山真生寺】 | 〒501-1105 | 岐阜市彦坂 178 番地
TEL 058 - 235 - 7304 |
| 【岐阜教会】 | 〒500-8882 | 岐阜市西野町 3 - 19
TEL 058 - 262 - 9615 |
| 【大阪教会】 | 〒532-0028 | 大阪市淀川区十三元今里 3-4-10
TEL 06 - 6308 - 5637 |
| 【名古屋教会】 | 〒454-0808 | 名古屋市中川区九重町 3 - 10
TEL 052 - 351 - 3904 |

上記の教会にお申込み下さい。必要な冊数を毎月お送り
します。詳しくはお尋ねください。

2022年6月10日発行 第202 (通巻307号)
※誌代無料 () 浄財の献金により無料発行しています